

令和元年度 第3回我孫子市総合教育会議概要

- 件名／令和元年度 第3回我孫子市総合教育会議
- 日時／令和2年3月25日（水）16：00～17：20
- 場所／教育委員会 大会議室
- 出席者／星野市長、倉部教育長、長谷川教育委員、足立教育委員、蒲田教育委員、村松教育委員、廣瀬総務部長、丸教育総務部長、木下生涯学習部長
（教育総務課）森田課長、尾高主任
（子ども相談課）阿部課長（子ども支援課）谷次課長補佐
（指導課）戸塚課長（学校教育課）岡田主幹、藤岡主幹
（生涯学習課）菊地次長（文化・スポーツ課）小林課長、辻主幹
（秘書広報課）飯田参事、高見澤主幹、安武主査長
- 傍聴人／0名
- 協議・調整事項
 1. 我孫子市第2期教育振興基本計画について
 2. めるへん文庫の今後について

【我孫子市第2期教育振興基本計画について】

我孫子市第2期教育振興基本計画を策定したことについて、事務局（教育総務課）から説明を行った。また、市と教育委員会との連携等について、意見交換を行った。

【意見交換】

- ・ 平成31年4月に改正した教育大綱は、元の教育大綱と大きく変えていないため、今回の教育振興基本計画も大きく変わっていない。ただ、今後、ICT教育や小中一貫、学校施設の更新などが本格化してくるため、今の時代に合わせていく必要があるという課題がある。
- ・ いじめ問題については、現在、市内では深刻な事案は生じていないと考えているが、今後も子ども部や地域などと一緒になって、取り組んでいく必要がある。
- ・ 子ども部と教育委員は意見交換の場を設けており、非常に良い関係が築けていると考えている。
- ・ 最近のいじめについては、全くないとは言えないが、アンケートやQ-

U検査などで早期に発見し対応しているため、深刻な事案の発生にはつながっていないと考えている。

- ・ 長期欠席の人数は、減らす工夫が必要と考えている。
- ・ いじめは深刻な状況になる前に早期発見が必要だが、今気になっていることは新型コロナウイルスによる風評が差別につながることである。
- ・ タブレット端末については、授業で活用されていることが分かれば、配置について再検討できると考えている。

【めるへん文庫の今後について】

めるへん文庫事業の設立からこれまでの経緯、事業内容、課題について、事務局（文化・スポーツ課）から説明を行った。

【意見交換】

- ・ 課題として挙げている、審査体制の強化として、連携協定を結んでいる中央学院大学や川村学園女子大学、聖徳大学の教員に選者を依頼するという方法もあると思うが、各大学に文学部はあるのか。
- ・ 川村学園女子大学にはある。聖徳大学については、後日確認をしてみる。
- ・ 二松学舎大学附属高校に働きかけると、めるへん文庫を指導してもらえるかもしれない。
- ・ むるへん文庫のネームバリューを上げるには、選者に著名人がいると一番良いと考えている。すべての作品を読んでもらうことは負担が大きいため、最終選考だけお願いすることも可能であるとは考えている。
- ・ むるへん文庫は、めるへん分野の内容だけしか応募できないと思っている人もいるので、名称を変えることも検討して良いのではないか。
- ・ 移動図書館が小学校を巡回するようになったことは、児童からも好評である。一方で、移動図書館車が老朽化しているという現状がある。
- ・ どのような分野でも、子どもたちが夢や目標をもてる環境をつくってきたい。

■その他

【新型コロナウイルス感染拡大防止への対応について】

第6回新型コロナウイルス対策本部会議において決定した公共施設等の臨時休館などの市の対応や、学校の「学年末休業」及び「学年始め休業」以降の対応などについて情報を共有した。